

# 言語文化学科 ドイツ語フランス語圏 言語文化コース ドイツ語圏 言語文化領域

# 言語文化学科 英米言語文化 コース

英米言語文化コース  
ってどんなところ？

私たちの生活は世界の繋がりがなしでは成り立ちません。その架け橋となるのが、今や国際語となった英語なのです。英語の運用能力を磨くことは、他者とのコミュニケーションの質を高めてくれます。しかし、それだけではなく、大学で英語を学ぶには、それだけでなく、多様な文化やAV資料を用いて、英語圏の文化や歴史を学習します。そうすることで単なる道具としての英語ではなく、精神性を帯びてきた言葉としての英語を身につけることができるのです。そのとき、みなさんの目には日本語や日本文化は以前と違った姿を見えるようになって。さあ、未来の世界に向かって一歩を踏み出してください。

ドイツ語圏言語文化領域  
ってどんなところ？

本領域は、ドイツ、オーストリア、スイスを中心とするドイツ語圏の文学・文化、ならびにドイツ語を研究対象としています。所属学生の興味は様々ですが、学生の多様な関心に合わせて柔軟な指導ができる体制を整えています。講義ではドイツ語圏の思想や歴史、さらにはドイツ語史、言語学に至るまで幅広く学ぶことができます。また、近代の文学作品や語学の専門書を通じて、実践的かつフランスの優れたドイツ語能力を身につけることができます。授業以外では、留学生ももちろんのこと、スピーチコンテストや語学検定試験に挑戦する学生のサポートに力をかけています。遠征でのイベントや留学生との交流も盛んで、学生たちは日々アットホームな雰囲気の中で学んでいます。

### 田中先生の研究について

私は、イギリスが最も繁栄したウィクトリア朝（一八三七～一九〇〇）のイギリス文学について研究しています。特にデイクネス、ブロンテ、ギヤスケル、ギッシングといった小説家のテクニクを丹念に読み取り分析することを通して、社会的・文化的コンテクストの中で、権力による一元化を拒む「異質なものを」をジェンダー、階級、人種の観点から浮かび上がらせ、それらが持つ意味を探ります。最近では大英帝国の首都ロンドンの都市空間に関心があり、中・上流階級から成る中心世界が周縁に対して放つ視線の帯びる複層性・曖昧性を、文学テクニクのみに留まらず新聞雑誌や社会学・歴史学の資料を用いて探っています。この「強者」と「弱者」の関係に見られる境界の流動性は現代に通じる問題であり、それについて真摯に考察することは、私たちが多様化する世界を生きるうえでの特長となるでしょう。



教授 田中 孝信 先生



講師 長谷川 健一 先生

### 長谷川先生の研究について

私は、敬虔（けいけん）主義と18世紀のドイツ文学との関係について研究しています。敬虔主義とは17世紀後半に始まったキリスト教における信仰刷新運動のことです。敬虔主義は、信仰を肯定するだけでなく、文学に生産的な影響を与えました。まず一つはドイツ語の語彙と表現を豊かにしたということです。敬虔主義者は自らの信仰を表現する際に、神教主義は様々な語彙を取り入れた造語を多く生み出しました。こうした新しい表現が、ゲーテをはじめとする当時の作家たちの関心を引き、愛されたのです。また、敬虔主義者が書いた自伝の影響により、自叙伝文学というジャンルが発展し、心理描写や内面観察の手法が深化しました。他にも敬虔主義は様々な形で作家やその作品に影響を及ぼしています。18世紀のドイツ文学と敬虔主義は切っても切れない関係にあり、まだまだ興味深いテーマがたくさん眠っています。

### 川角先生の研究について

コースに入ったきっかけ  
高校時代習っていた英語の先生のようになりたい、自分の好きな英語を使った職に就きたいと思い、私は高校の英語教師をめざしてまいりました。英語教師になるうえで英語に特化して勉強したい、英語に対する理解を深めたいと思ったので、英米言語文化コースを選びました。

コースに入ったきっかけ  
英米言語文化コースに入り専門分野が異なる先生の方への授業を受けることで、様々な考え方に触れることができ、小説や映画をたまた見たり内容を楽しく読んでみることにしました。



3 回生 川角 九十九 さん

おすすめの本  
マーク・ピーターセン 『日本人の英語』 『続 日本人の英語』 『実践 日本人の英語』（いずれも岩波新書）  
日本人が間違いやすい英語、それを分かりやすく時にはユーモアを交えながら説明してくれる、目から鱗の、英語的発想の世界への入門書。ぜひ読んでみてください。

おすすめの本  
ゲーテ 『若きウェルテルの悩み』（岩波文庫）  
18 世紀の恋愛小説ですが、高校時代に初めて読んだとき、ついつい感情移入してしまったことを覚えています。青年期特有の感情の揺れに共感する若者は多いと思います。

### 木下さんの学びについて

領域に入ったきっかけ  
高校生のときオーブンキャンパスで、この領域の体験授業を受けました。ドイツ語に触れておもしろさを感じ、新しく言語を学びたいと思いました。また大学生になり、授業でドイツ語圏の音楽に触れ、興味をさらに深まりました。

領域に入ってからのお気づき  
この領域ではドイツ語文法だけをひたすら突き詰めるだけではなく、ドイツ語圏の文化・文学といった幅広い分野に触れながらドイツ語を学ぶことができます。クリスマスママーケットや遠



3 回生 木下 真実 さん

おすすめの授業  
英語学概論  
英米言語文化コースでおすすめの授業は豊田先生の英語学概論です。たとえばアフリカの言語と英語を比較して、英語にも標準文法以外の用法があることなど言語としての英語を扱います。ほかの授業もおもしろいのはたくさんあるのですが、言語としての英語を勉強したいと思う人にはおすすめです。

田中先生にとっての「芸術」  
芸術の中の一つ、文学はどのような力を持っているのでしょうか。一つには、社会の矛盾や差別を告げる役割がある。一つには、読者の目や心を高め、文化や歴史への関心を高める役割がある。それらがその土地に生きる人々にどのような影響を与えているのか、そこを生きていくわたりのほうどうなのか。未知の世界の人々の精神世界が垣間見える。さらに、読者の自らの内面を顧みる機会も与えてくれます。作品世界に浸ると

長谷川先生にとっての「芸術」  
みなさんがドイツ語圏の芸術と聞いてまさか思い浮かべるのは音楽のことでしょうか。実際、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンといった有名な作曲家を数多く輩出したドイツ語圏には、音楽と文学との関係は密接な関係があります。シューベルトが文藝サークルの詩（魔王）、野ばら（等）に曲を付けた数多く輩出した（歌）曲は、そのわりかたやすい例です。私にとっては興味深いのは「総合芸術」と呼ばれるオペラ、ナワーの楽劇（オペラ）と文学との関係です。執筆の際に、伝説やモチーフを用いた様々な文学作品を巧みに利用し、独自の解釈を打ち出しました。では、その結果、元の作品との間にどのような相違が生れたのでしょうか。その理由はどのように考えられるのでしょうか。こうした点について、本領域ではテクニク分析をもとに様々な角度から考察・解釈することができます。実際、現地の劇場でヴァーグナーの作品を観劇することです。芸術を生で味わうことはテクニク分析の深い分析に繋がります。若いうちに一度ドイツ語圏を訪れてみてください。

おすすめの授業  
ドイツ語圏言語文化基礎演習Ⅰ  
ドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたドイツ語テキストを読み進めます。ドイツ語文法を学びつつ、日本とは違うドイツの社会制度や教育制度なども知ることができます。また、この領域の授業ではありませんが、ドイツのオペラ鑑賞できる「ドイツ語特修」もおすすめです。

### 卒業論文 タイトル紹介

- 『ジャズ』における音楽と文学との融合
- Educational Difference Between Schools in New Zealand and in Japan
- Human Beings versus New Media



### 卒業論文 タイトル紹介

- 寓話「赤ずきん」の変遷
- 愛を見失った男アナトールと作者シュニッツラーの冒険——戯れの恋と真実の愛——
- J.F.ハイナッツ——100年先の標準ドイツ語発音を予見した音声学者——